蒼軋翁佛諸附合集

全

911.3
ソ
全

半青居新甫選
蘆明庵五休校

蒼虬翁俳諧附合集

東都書林　青雲堂梓

茨城県立歴史館所蔵

宮本茂之

水戸市

抜き出俳諧乃練磨より切れる人おのゝ得る
変化の妙密なるゝ人もまれなる花月の人れく
都なるゝとす新たなる人実ありてそのなる蒼蒼の
中より自在をゆて高の上に風流はつきもよく
時雨中かすゝすゝきをゆてもゝ雲を石道とも
遠人雲も叶ひるゝ人ゝ流の芭蕉雷蒼虬翁
よくゝ乃境をたゝりて能中連句に仲間

なす数よしや雅とも志ゆりともいれとも出きぬれ
発句あつめ又は歌仙の集ともに梅通ぬしは
撰ありて郭をも度々世にまりこれなすは
雪の師の跡をさはありしより風雅の組郷
常に此井を立出て一機とせしや跡は高嶺
二ぶをもたらかして家集の抜漏を補ひ猶哥
仙の集成を追副の心ありてさし筆紀の功
なす紙るほを朝夕のに王たの編にかりて

依て古人の趣をりぬさる成書肆某光
おこひ其稿本を求めおこりとて序文ありとて
披斬成之をとて切り書窮に柳りたるたまにし也
花去の七霜乃あら寂まえ何れれそころ紙事
追福なる聊の何かなくんかを撰たけ記く志をと
なすゆゑね花去や月此志らぬ書成紫深し
蔵れて浴の花蕉堂に於新あをゆるが七年
阿ひて書成東都に出てから中橋は住志ゐゑ

世業東下及雪うとて予は老師高雄翁の
俳筆を肩をならべ付をとりて笑ひ
渋のつきたるを拙き筆にて拙ておくるはとこそ
思ひたいとをこがましく紀業をしてて

文久元甲子仲秋　平書名新甫

宮城文庫

蓼机翁俳諧集

東都逝去

第根のうち半ば高ぶて花の春　蓼机
加賀ことなるのうたぶりの町　英山
生涯苦をちぶ紀桶よりきて　机山
ぬのうち色よりわせぬ井戸端　机山
初月やまつお庭なる天窓相　机山
手遠のうちよりうち沼桁
編屋の仕舞まうよりうち
役所乃ゑけの遠き夜深　山

ほつこうをしの乃小さい焼あう
度なりをいかゝ遊をとうあ
幾ゑれつまゝ法ひを事をさ
ゝ
去ゝ一番さ遠さよ紀月
二度目る本間に家を少相見
刑力かりてあるよの初
鶴乃羽ひきーてを度をて
宮の中こう仮のちかく
かゝ涼乃法ようて市ひとと
水晩鶴のまゝはやるを

九
山
九
九
山
九
九
山
九
九
山
九

十二

前の和のかゝり工法けを裏稽
約てを切れ吟ぬ八方
捕神を海よりをこゝ中をの面
笑ゝをひふはゝ中花孔
国崎の橋乃穂を後を事ゝ
里ゝのゝやゝ仮乃ゝ中を
志めゝをゝ林風を変をゆゝ
銭を入中を変除の石系家
入仏乃寺徳を方れを入ゝ
光れをゝを吟ゝ雷

、
九
山
九
九
山
九
九
山
九

わるる激乃百へ注ぐる雪の花
汗なるのさもく碎礫流乃碑
よるべぬ浮きたれる舵乃遠浮
ゆるく第は張を去ぬる
言うまへしてみて極宮の長岸
業とぬ大きー かまる業
ぬ節を四乃屋りまる花屋
絡る業をめる功業

山 山 山 山 山 山

刈の去きき篠や雑の舞 業 有業
朝ちくい消つる雪 朝 湯
料理場と若大根を積ちけて 業 湯
車は先へ坂ちり一本る 業 湯
強敵と肩入つる蕾の月 業 湯
まるなる法ちき記滅ちり 湯 湯
あつて地尾の早稲は作り元 湯 湯
お新と聞て姫まるる 業 湯

池をそらして豪風をもかり
ゆて機乃給ふよう願る
拙賣も他領のうすある山のうち
不動社第宮のもつたうと建
癲癇乃ゆゑて考つまる朝の乃
馬士ども給ふ給の高萬
ちう峰乃東ゑ口乃出ぬつゐて
隅きくしけいゆうもて出役ふ
源ちうもいうぬ好なる恵の面
放条ゆう所ちの和さ

功
北
長
功
北
長
功
北
長
功
北
長

小一外拾八寸ちう屋西芋
不動法ちまつく法次の深ゑ
かいうちて経ふ社寺とゝ
表延せちうゑ宮の瓶戸
恐くの猫ふはゑ一ゑ拾拾
雪ゑちゑ北平ふかうちる
ふうき神ゑかんて地ゑ
面ちゆりはうちる安猫ゑ
緒木まて持ふ湯治のゆうち
ちゑ業ゑゆてちうゑ吸ゑの

北
長
功
北
長
功
北
長
功
北

ふきまり月を見せたる雲寒　芸
先伴也背のひくき宮寺　塢
石塔て当る瀬も橋乃穴　机
鯡のむれて来るもさかりにて　芸
帳合は暮の嬉しき清の年　塢
能く家乃ありし里ふ縁出　机
何ゆる蜂の羽根そのまゝ落ちる　芸
霜て焚むれ松谷の戸口　塢

おもしろしはく野梅なる　蕉几
蒸餅ゆふ淡雪の中　岱来
写牧師に出来ない刀の鞘の似て　几
猫乃籠のあつまりしき哉　来
雛の都紀土間子月比明のかすり　几
清水乃猫へ小まくらの花　来
糸酒も銭も節子よく出ず　几
くらい内から上戸髭同　来

[illegible]

机
乘
机
乘
机
乘
机
乘
机
乘

[illegible]

机
乘
机
乘
机
乘
机
乘
机
乘

[illegible]　乘
[illegible]　机
[illegible]　乘
[illegible]　机
[illegible]　乘
[illegible]　机
[illegible]　乘
[illegible]　机

[illegible]　重机
[illegible]　自乘
[illegible]　机
[illegible]　乘
[illegible]　机
[illegible]　乘
[illegible]　机
[illegible]　乘

蚕まはなれて柴のゆふ波よその海　机

よめ嫁を見るもおどろかり　乐

長入梅に操窓合せ差日の宿　机

おほきれ茱萸の孫に宿つむ　乐

明ぬる家はる結訪の月待て　机

峯を渡りのむ鷹渡る山り　乐

駿州ほ旅する日雇を出て守り　机

出代おりまでたちよつて歌分　乐

何ぶまの花味噌すらする鶯　机

情まれ乃窓を露む桂家町　乐

此集つけ売る馬の鈴を遊ひ　、

其ン乃たえずる法家への系統　机

八方の桃を柳秋をくちなし中　乐

義理なきさ前を知ぬ住りる　机

風松月ふる見て念ぶかあり　乐

概を松かつつある綾きる台　机

松穀の下太ろえつつ寺修を　乐

来橋形りのうちさき出すけ　机

摘みけよ流れ志るちく帆岩に水　乐

結ちて庭の菜味見うちよ　机

下ヶ[illegible]ちかつく頃の月の色　東　机

[illegible]　東　机

[illegible]　東　机

[illegible]　東　机

[illegible]　東　机

[illegible]　東　机

上六

藤掃て又流て切く抑代　美机

[illegible]　桐雪

[illegible]　桐陽

[illegible]　机

[illegible]　東

[illegible]　陽

[illegible]　机

[illegible]　東

[illegible]　机

三度めの禁酒も遂に破れぬ
汁粟をこぼして喜ぶ
生駒より古い皮羽織の出
拾ひたさに西の湖流
八月九日なきうれしさかり
蕎麦も人よりまし飲汁
典薬の来たれと眉目ちらく
日暮のさかり蕎麦の
酒池も古江を掘を皆切り
つまく拾ひたく塚のけ元

一歩ちらく沙もちらつの数小数給　拾儀
沙ちらさ人数研を内る
汁粉の沙も反白ちらつ切き
汁をうたへて佳物絶物
沙ちる茶ちらるる茶の拾て
四江中ちて八京侍を内る
年ちけよりも上総をちる
先人数のちらつ掃清
昨乃蕎元て黄りれ数小蕎合
銘屋の底ちほをき用け

拾儀
忠
机
儀
忠
机
儀
忠
机
儀

新絹の出来た古府市にして　老
燼子の出る横塚ま涼く　扎
何しても瘡乃けしや力なく　伐
戸前ちの気を落入て謡る　串
漁とりんのうちも打てある生肴　扎
かりかて重し二里の鍋の子　伐
花ちりり新也の気に殖るなり　串
中より道なる春の慰之　扎

卯の花や打てたれ八折きり　蕉扎
賀を結ぶ乃丁度よ紅　朝　柳通
維摩人用心井戸に水吹きて　朝塙
雛の小雲ある床むくく之　扎
藍残乃ちり掃除ときの月　通
ここらの月の道々なく　塙
是への穿ち踊る思ひ出まさくのあまさ　扎
切つて康乃子の気に早ちわきさ紀　通

手ならふ筆てうしかけし小笠之書　場
書写をんせ揚るつく冰さ　札
都しけ賀式たりしも日新ちゝ　画
中農昨へくしやうりし古法　場
切堀のお田りふくさたる畑みし堂　札
出作をさを春る馬乃おち紀　画
庭根よ草濫ちとてつ九花淺　場
口すれ法了龍葉まてふく　札
月花引攘亂よちきれ荒を淺き　画
人る草ゝ智恵乃出来る手柄　場

謹中も手の皇子け八半ちゝけ　札
思ひくさ生菜伐そりしなり　画
かれおきさ地獄都乃大藏　場
懺を立れ家のまお紀　札
旅子振て乳あけりやを中半らし　画
依り宮めくらぬき宮路丁子湯　場
越後屋の都永髭ちうり跡し家　札
蓑よ笥のき出色碇の上あり　画
きれ補も音味まうわのる無の私　場
素乃子ひたるて月の未照り　札

賣殘さ生たかうし渋う紅繪　由

ちらしおめる紫し絲庭眠　喬

洪水の林さへのけぬ石の中の岩　凡

顔色うへて用をありう新　由

はうしく菊摺打をより遥　喬

霰も寺内をすりる格子末　凡

みしえる猪もとわうし噺りて　由

乾すおきて杰ず稀鶏の戴　喬

舟宿の東出拂ひぬたさ乃秋　柳岳

秋の空にて形継て加さり來る草稿　菫凡

月の下に酒のむ慈乃むかし流ますみ　岳

掃ふせつけし筆柳しぐき　凡

巻川とふへて紙うさぬかすり　岳

橋で佳有る打む生の白　凡

柳すりし来て息子の中登り　岳

前了　行つきかうて続ち頂上　凡

岳　蓋世の行樹を見て
机　古を賞人を羨かきも
岳　是孫乃拭て
机　さきをかさねぬ月
机　丘鈎の何たからぬ
岳　橋の
机　
岳　
机　
岳　
机　
岳　沙平社城を

岳　
机　
岳　
机　
岳　
机　
岳　
机　
岳　

四季

蓮宇

小春十かつの八日の月

冷々と休者の夢をうつして

東池

西東方ハ雲ハ月

蓼洲

振別る雲と消りの南うけ

宇

ゆくすゑ雲ハ前田と消て

野

かけて雲間の紅を拭ひ

洲

遠く島ハ雪きらう

池

思ふよりあれの多のいと宿
ゆきて見るに花咲出
ちくしをはなるの物の中
源氏の浮ふかを係物
月代の上をもとに養すのり
草世せつてかゆよの年
出代らぬけりて雪物あつくへて
時分もつ上二階物すり
ゆしく花のさうやに所一面拭
濃一越すも去ら塵とら

海　宵　池　机　宵　風　机　池　海　宵

ゆきて形を高く舞の舞出行
一口もけたいもぬ拭手や
ちきき物をおくて風を光人
ちつとも井を所一絵物
夏雪を机ちひきり拭へて
日和乃ちれる雪引出所
小ちけを曇すんなる裸山
いつまでよ海りやれ
立樊の今ちつつやく石瓦
切ちなくて打ぬ濃茶

池　机　宵　風　机　池　海　宵　池　机

小路のこく名月見ゝ未亡し　守

をさ新法りりて雲ひ出る　風

花見序酒端とつゝ人出て　机

売れ中ますし法すむ参道　池

志ハし尾銅壺の湯出し　風

吉川雷乃鼓しと鳴　守

宗実のハよえ給ふむのかし家　池

吉細句見なりし地の松岩　机

礼以来松印よ茶新しお宮代　守　池

御中すし札芭の由む澁帖　塞　る

新作のゝ壺手銭一人揃人て　田　風

よりは路出て所乃三日月　蔓　乱

高貌ハ売振向ぬ辻噺し　波　文

生平なし赤よ取る深編　桃　筆

急入て打ての釘地出るなり　る

律儀はの見先之京て名る　池

カイコウ
懐古

うつくしい栗をもらって数年
春の嫁をけのそ深川
時雨をきいて居た初冬
時雨をきいて居た初冬
時雨をきいて居た初冬
月夜をいつまでも山の月を見た
墨で巴の字を知らせた嫁の書
時雨をきいて居た初冬
後の中に残る百姓
素撫の蕭条を絶ち絶
うつくしい郷土を見た深

北
風
文
北
風
言
文
北
言
北

十九

まだいつまでも行方の知れぬ
を知らずにいる代孫で
赤穂の伏拝みに行ったが
紙をいつまでも紙を
嫁の紙を春の新へかけて
いつまでも神の又の法つき
術を命ずるまで一数の
時をうつる光る年華
力をかけて法滅を拝む
まで毎日毎日

北
風
北
文
風
言
文
北
言
北

カイコン
懐妊

うつくしい栗をもらって数年
春の懐妊をけの中に深川
時屋よりもらい屋敷の外の
時うけはねを入れ敷屋を
用意をいろいろ山の為に
器にて山を知れさせ懐の者
時家よりもらって子川をれ
後の中に物を拾を
意撫の蔵家を絶えて
うつむの御ふくを此深

机
母
比
文
母
比
文
机
母
比

ナヲ
まれいの如く子時分の時
をあまりもらって代孫を
赤穂の状拾ひ
御をいまの紙を
懐の紙を表の紙へかけて
いやをいまの神の又の法つき
御を高ものを一数の
時をうつ先生の年華
内を加へ本書を法流を拾ひて
ものをかへ毎を高

机
母
比
文
母
比
文
机
母
比

[illegible] 月を惜へ　机

[illegible]　陽

[illegible]　池

[illegible]　文

[illegible]　陽

[illegible]　写

[illegible]　文

[illegible]　机

[illegible]　蓬宇

[illegible]　月　[illegible]　蓬　机

[illegible]　宇

[illegible]　机

[illegible]　宇

[illegible]　机

[illegible]　宇

[illegible]　机

知年ゟて披露はらせ此内給よし　字
むまれ事しれきみ哉水引　札
馬場乃遣可さわらを掃出して　字
布さへ我の始終はよ手すさみ哉　札
かり津も何処り落へ哉月見雨　字
宴より角落江鮭の毒子猫　札
庭盛衰り五月ふえる角力好　字
鯛てもひらへ棚気長かうり　札
川風秋の夜つ本り海作菊の鳴　字
たされ市まてこえ哉豊主　札

お果さん起まつ雪車しに戸乃恋　、
嘆さ河へ大乃扇すれ　字
機うけ足場ふくく縫ふて　札
氏子乃守けの弓ふに下縁匠　字
振舞れ猿を帯を組まし　札
あやまりなかつてよくつまる聖　字
沐耻の分まわらく虫干して　札
一年内で乃新年とさぬる　字
けのうれを締まいかしき菱太石　札
田舎踊れアらしから鳴　字

[illegible]　机
[illegible]　宵
[illegible]　机
[illegible]　宵
[illegible]　机
[illegible]　宵
[illegible]　机
[illegible]　宵

[illegible]　羨机
[illegible]　一瘡
[illegible]　氷角
[illegible]　机
[illegible]　瘡
[illegible]　角
[illegible]　机
[illegible]　瘡

角
机
蔗
角
机
蔗
角
机
蔗
角
机
蔗
角
机

十葉能寡語よ付て飛雀の声　燕
御よ何のりそくらまする味汁　角
洄のかん時や何やら置けて居り　虬
鐶ひらきちらちらよ掛りけり　燕
慰さけ紫しく吹草をこしらへて　角
手洗すゝちよろりける沖西　虬
菜ちらちと込へとかりきるなりける　燕
羽らかのゝうさ鶯の葉枝ま　角

蕭掃て寒きおぼろなる小ちらや　蒼虬
うまい池あは消る煙火　松什
賣者求古手をかくし約銘で　虬
瀬染浮す何ちるのちの一つさ　什
何ふ寺の池郷よ言月乃入仕舞　虬
風呂皮ひのてうかる秋の空　什
西隣絶よまそて夜度も籾干す哉　虬
筆石港のら塩かく流く　什

春は菜さく梅散れ宮の手水鉢　、

おつて安ねて巷けぬ旅衣　机

われ氣は常人して荷る旅姿　付

猪の浅面白き盛れ苔をゆふ　机

かしこしや背を伸さぬ花の青手　付

あまちて降りての日に小盤　机

腰ほほそかし風には物遊れ　付

咲きても遠入る園まてしを　机

御茶とし上衡の御顔は身ほつて　付

積にぬ白こころけ鬱る筆紙　机

[illegible]

[illegible]

[illegible]

知　知　知　知　知　知　知　知　知　知　知　知

知　知　知　知　知　知　知　知　知　知　知　知

机　知　机　知　机　知　机　知　机　知

義山の蕭寺の雨中の作　蕭机

小雨の初て社に遊る頃　之舊

羽子をうちに出い侍るを扱ふて

ものしてあまたの扇を扱ふて井戸

所市にひけるを見の題物

もつて扇よりはけ反酒

入口のせんはけうう事の絵

若狭乃蕭乃初見袋　蕭机　蕭

上掛ケ軸ノ序ニ付テハ
山ノ書ハ下ニ位シ山ヲ新
新書ニ入レ遠ク湖ニ対シ
別端ニ入レ遠ク振ノ位ヲ
三月上旬ニ至テハ桜別端
ヲ作ル作ル除ノ如シ
別ノ如ク方ニ入ル書ノ礼
ニ入ル別ニ絵ヲ入ル
めきくニ花ノ咲ヲ書下リ
地出ノ所ヲ絵ノ長

記
著
記
著
記
著
記
著
記
著

旅ニ書ル高長ハ洪
書ル所ニ別ニ入ル絵切
ほとめの書絵ヲ書ル清上福
休ノ記ニ長ニ所ノ四ニ馬
書ル家ノ長ノ山ニ入ル所ハ
夫ニ書ノ別ニ書ノ献立
書ノ如ク所ニ入ル長ニ書ノ
ノ書ノ山ニ入ル合ノ如
川舟ニ女ノ入ノ絵ニ入ル
書ニ中ニ入ル書源

記
著
記
著
記
著
記
著

四国地乃絶えて海の底の
藻屑となりまて捨てたる年
小刀を小柄を焼き柿乃渋
川也毒を交ふる横町
いつとなく雲隠のうつなりて
こなたまきりて世を貪地
ちる雨乃杉よりつくる水沢
千年経たる色乃さへまし

芳机
芳机
芳机
芳机
芳机

まて新しき葉の下は堤の形
春やりぬ立て春日三ヶ月
夏八十八夜新茶のけ春を
寒さはさらの波寒むし浪
麦の穂乃赤きをさきを麦乃
ふく麦をくくりて南北を入ぬ
八幡乃宮を常夫仕舞ふ
ちりつくしの水ふ野を緑
田酒をつくせる古をなめらう

芳机
丁の大
丁分
相米
大机
米
知
机

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恵　　机　　文　　恵　　机　　文　　恵　　机　　文

答　　恵　　机　　恵　　机　　恵　　机　　恵　　机

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大工等の作事八月上旬に成就
妙見堂の内陣の荘厳
何とかして仲人を求めよ
とて
叮嚀に
相成
相成
相成

[illegible]　机
[illegible]　兵
[illegible]　机
[illegible]　兵
[illegible]　机
[illegible]　兵
[illegible]　机

[illegible]　卓池
[illegible]　机
[illegible]　三岳
[illegible]　答嶽
[illegible]　机
[illegible]　池
[illegible]　嶽
[illegible]　岳

池
帆
岳
秀
帆
池
秀
岳
池
帆

内掛而上人の城こそ今の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

机
池
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中折[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

丸
机
丸
机
丸
机
丸
机

日掛ける時年はたりまやを
秘動をくの士結外法成船
やけ空のすさ新らき様りら
酒ゆる内多寄秘義を
麦島の業を為つく自の時
実のいまをかりの考合
立さしこの法ひをを主代り
近ゆくゆををるきぬ法花
内ちをを為法の主表をう
ゆしは道をりゆを力を先

丸 机 丸 机 丸 机 丸 机 丸 机 丸 机

二のをを琴を代形法実を
始りをを過る 新
ゆの人なり仕物を主男上家
勢蔵をうを空あを山を
鈴まれを光恒俄的を時上り
ひ人見のは外見をうぬ
家明を道の大ゆ菓子寄りを
をうを山投ちを外をうを
弱をりをりをのぬをををやす
下を引をを脱あちかを

丸 机 丸 机 丸 机 丸 机 丸 机 丸 机

内庭の東西岸の月

[illegible]　丸

[illegible]　机

[illegible]　丸

[illegible]　机

[illegible]　丸

[illegible]　机

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小春蘭を居所の出雲の月の秋　机

刑部を行ぬる鶴を雲の月　長

きちかまきりの鶴小鳥の月　志

汐見かよりの雲の月の月　机

足あるはのうたの木陰葉屋　長

ふりいたりの市は人　志

須磨の花の月はまるこうしく　机

茶摘の釜はたらぬ月　長

初しぐれ鶴の鳴ぬ初時雨　長机

松壁又初しぐれ村のうつき　悠々

汐のきえ初しぐれ沖のうつ出て　机

時雨ぬをよりたのる　悠

子供笠を洗足きせる月の月　机

のうけて金を野の方の萩　悠

ちりのきを掃除を深ぬ時雨　机

桑畑や初しぐれ作西の雲　悠

幸崎人おのつから三八法法をのり
何所を除ちうるかなり
年寿二つ犬の紙を言つけて
厠乃侍上筆り紙用紙
鮫細の紙を掛小書紙 月
書上ゆ屋を書き犬の尾
町命好中の高いをおのれ石紙
此ゆ之的ゆ之ゆ紙小鳥爽
四遠爽ゆ乃ゆ乃ゆ之ゆ之ゆ
第四 札のひけ一 書家さ

札
紙
札
紙
札
紙
札
紙
札
紙
札
紙

嘲ゆ之ゆ今ゆ上ゆ乃ゆ四大ゆ先
而ゆ之ゆ乃ゆ一 近代の硯
世ゆ人の所ゆ之ゆ部物ゆ拵ゆ
法ゆ乃紙乃ゆ出ゆ乃ゆ肩紙
物物ゆ書ゆ上ゆ乃ゆ之ゆ書き
ゆ物ゆ市ゆ書ゆ当事や様
子ゆ書ゆ四ゆ物ゆ之ゆ書ゆ中
為ゆ志ゆ物ゆ紙ゆ之ゆ之ゆ
ゆ之ゆ外書法紙乃ゆ中
弼ゆ中ゆ之ゆ拵ゆ石書

、
札
紙
札
紙
札
紙
札
紙
札
紙
札

月[illegible]
[illegible]
[illegible]

机
後
机
後
机
後

幾　机
幾　机
幾　机
幾　机
幾　机

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寵光華[illegible]初乙酉
[illegible]
[illegible]
[illegible]

初梅や弘華流人庵のすみ　市隠

行の春いさよふ雲のなごりかな　稜翠

水乃子まさ小田の雪ゝや冬木の葉　梅華

初時雨ゝ雪を梅を風　法雲

嵯峨の梅や雪ゝまさりて頃の人　曙風

梅ゝ雪ゝ雪ゝ梅ゝ雪ゝ梅ゝ雪ゝ　渭川

朝の雪出ゝ雪ゝ雪ゝ時の雪　芸殘

梅ゝ梅の蕾や若葉の梅　安有我

春雪や雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　竜湖

梅の雪を解て梅の中

梅の雪ゝ雪ゝ雪ゝ梅の中

なのゝゝゝ新なのゝ雨ゝ新なのゝ　帝人

吹ゝ雪ゝ新ゝ雪ゝ雪ゝ花の新　梅丘

風の雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　夢岩

梅の雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　稲破

梅の雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　麦松

吟ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　芳年

春雪や雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　庵雨

春雪や雪ゝ雪ゝ雪ゝ梅の花の雪ゝ　雨法

春雪や雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　春地

[illegible]　立字

[illegible]　仰風
[illegible]　秦山
[illegible]　靜測
[illegible]　聚水
[illegible]　[illegible]
[illegible]　拾泉
[illegible]　風柳

二葉

[illegible]　可怪
[illegible]　二友
[illegible]　陰風
[illegible]　[illegible]波
[illegible]　洗青
[illegible]　挂傳

[illegible]　嘯[illegible]
[illegible]　清民
[illegible]　杜山

[illegible]

紅三
六根
幸居
自有
仔写
一写
芳塢
左竹
一止

白砂や赤の字紀山を清く志賀
時雨なるや小面の塢のろし
警蛙ひとり苔踏む小庭哉
小雪白沙を踏て深き庭
なく雁と書奇よむ松の
嘯なるや日暮れ川の柳
よ紀氏の紅梅の枝を客佛
系図や孫多なるあの行雲

布山
梅溪
鶯谷
松園
雪
可静
可蘇
梅二

塩竈乃乃ゝ乃ゝ白清き波自　此一

東京帝國大學圖書
第 6256 號
昭和 3. 入受

[illegible]

鶯苔
一鶯
栗米
三弟
貫之
里枇
石洗
南溪
南江